

## 2004年8月号 神の名において

NI No.370 August 2004  
In the name of GOD

< 内容 >  
(本文は英語です)

神の名において  
宗教と暴力の特別な関係に迫る。

融通のきかない信者からの相談  
ローラ・シュレシジャー博士のラジオ相談  
番組に届いた、信心深くも困った質問。

宗教を必要としているのは誰なのか？  
この大きな問いについて考えてみよう。

正義とバチカンの対決  
ブラジルの反抗的な聖職者たちは、今も貧しい人々のことを第一に考える。

宗教は絶好調 その事実

なぜ？  
狂信者の精神分析を試みる。

居場所を探して  
若い欧米のイスラム教徒は、なぜ外国へ行ってイスラムのために戦うことを決意したのか？

政教分離を保つ意味  
ヒンズー至上主義を掲げる人民党が選挙で敗北した後、インドの政教分離はどうなっているのか？

宗教で苦しむ子どもたち  
宗教によって精神的・肉体的に苦痛を受ける子どもたち

神の歴史 - 非公認版

多様性をわきまえる  
精神や宗教に対する考えをどうやって形作ってきたのか、二人の小説家、ベン・オクリとエイミー・タンが語る。

\*\*\*その他、世界の情勢を伝えるニュースやポートも掲載\*\*\*



精神世界と宗教は紛れもない現実である。実際にどの文化にも、何らかの形や流儀としてそれが現れている。しかし最近では、宗教原理主義が台頭している。9月11日の攻撃、宗教や社会背景が原因のインド・グジャラートでの殺人、イラク攻撃、社会的暴力、中でも女性と同性愛者を対象としたもの...等々身の毛のよだつ行為を正当化するために「神」の名が引き合いに出される。

はたして宗教は、今日の世界で善の力となり、社会の変革を促すものとなり得るのだろうか？ それとも、一部の非宗教主義者たちが言うように、民主主義に対する最も破滅的な脅威なのだろうか？ 神を敬う健全な心は、なぜ残忍で狂信的な心になるのか？ 原理主義的な傾向に、信仰システムの内外からいかに対処すればよいのだろうか？

NI-Japan No.58 2004年8月号

神の名において

< 内容 >  
(本文は日本語、一部英語です)

< 今月のNI本誌記事の翻訳 >

「神の名において」(NI p9-12の翻訳)

< Reporting from Japan >

コミュニティーの神々 ~ 分権主義の神道

NI-Japan ケイト・ストロネル

< Country Profile >

「世界の国のプロフィール

- イラン」

(NI p36の翻訳)



NI (英語版、A4サイズカラー、約40ページ) と日本編集のNI-Japan(日本語、A4サイズモノクロ、12ページ)をセットでお届けします。

【年間購読(1・2月号は合併号のため年11回発行)】

1年間 10,500円(送料、消費税込み)

2年間 19,000円(送料、消費税込み)

【お試用最新号またはバックナンバー】

1,000円(送料、消費税込み)

\* ホームページでは、購読お申し込みやバックナンバー照会、無料メールマガジン申し込み等がご利用頂けます。



< お問い合わせ・お申し込み >

有限会社インティリンクス

〒193-0843 東京都八王子市廿里町46-2

Tel / Fax : 0426-29-4863

E-mail : info@ni-japan.com

URL http://www.ni-japan.com/